

令和元年度 第1回大野市総合計画審議会

日時：6月2日(日) 午後3時～6時

場所：市役所 大会議室（2階）

出席者 大野市総合計画審議会委員 21名（欠席者4名）
市長、教育長、政策局長、総合政策課長、総合政策課員

1 開会

2 委嘱状交付

3 委員の紹介

4 会長、副会長の選任

会長 南保 勝 氏

副会長 石塚 淳子 氏

5 市長あいさつ

- ・手作りの計画を策定したい。
- ・現場、実態、新しい視点を組み合わせていきたい。大野らしさにこだわりながら、また、全国や世界のトレンドを取り入れながら取り組んでいきたい。
- ・人口減少対策については、あまり成果が出ていないのが実情。国全体が人口減少社会に陥っている。
- ・人口減少の時代だが、暗くなるのではなく、明るく楽しく、大野を好きになるように。未来へつながる計画づくりに力を貸していただきたい。
- ・今年度は市の将来像、構想実現のための柱、基本構想の策定までをお願いしたい。現場の声や最新の情報等のご意見をいただきたい。

6 諮問

7 趣旨説明 資料1、2

8 基調講演

「総合計画の策定とまちづくり」 別紙資料

講師：大野市総合計画推進アドバイザー 岡崎 昌之 氏

9 議事

(1) 第五次大野市総合計画の実績について・・・資料3、4

(2) 幹事会について・・・資料5

(3) 市民意識調査について・・・資料6

(質疑応答)

委員：移住者かどうかを聞いてはどうか。

事務局：属性に追加するのではなく、移住者にアンケートへの協力をお願いすることになる。

会長：検討してほしい。

委員：どう実行していくかが大事。もう一度、大野市が県の中でどのような位置づけにあるかという実態を調査する必要があるのでは。

会長：実態を知ることは大事。大野の強み、弱みを分析して、イノベーションをいかに上げるかが大事。

委員の皆さんから一言

○若者が総合計画策定にどう関わっていくか。アンケートもよいきっかけになるのではないか。いかに多くの人を巻き込んでいけるかが大事。

○いろいろな施策があったが、驚くほどの進歩はしていない。原点に戻り、大野の魅力は何か、魅力の一つ取りだし、それを中心にして政策をやり直し、考え直してみてもどうか。

○原点を見直すように。中部縦貫自動車道で中京と結びつく。今までは関西に目をむけていたが、今こそ見直しが必要。中京圏をターゲットに。新知事は、嶺南に力を入れている。勝山市と手を組んで、奥越にも力を入れるよう言うべきである。

○3点お伝えしたい。

1点目は、定住人口と交流人口を足しているグラフはナンセンス。このグラフをやめて、観光客入込のグラフにしてはどうか。外国人の実習生や労働者が住みやすいまちという視点が大事になる。

2点目は、子ども子育て分野について、小児科専門医を連れてくることはできないか。医療、病院問題が気になりである。

3点目は、道の駅について、中部縦貫自動車道の完成は楽しみであるが、道の駅の場所は間違っている。あの場所では、まちなかに観光客は入ってこない。勝山市の道の駅は恐竜博物館との動線上にあり、理にかなっている。モンベルブランドで、そんなに引き付けられるのか、観光に対してどんな協力や支援をしてくれるのか。

○中部縦貫自動車道の工事が多いが、大野の業者は労働者不足が原因で参

入できないところがある。若者の流出は、親の意識（意見）も大きい。IターンやUターンを受け入れる体制も大事で、希望を聞くことも必要。産業誘致の前に、受け入れ態勢の整備が重要。

- 平成28年からバイオマス発電が始まった。奥越には7万haの森林があり、仕事を増やせる要素はある。九頭竜森林組合の従業員の平均年齢は44歳で比較的若いですが、今いる人達の後が続かない。人材確保が一番の課題。
- 学校再編の見直しがされている。よく検討して進めてほしい。
子育てしやすい環境、働く場所の確保などで、人口減少の食い止めを。PTA活動の負担の軽減と言われているが、大事なことは続けていくべき。
- 市民向けのアンケートを見ていたら、項目がたくさんある。市政に反映されると思うと、ちゃんと答えたい。後期計画のアンケート結果を見ると、大野市の現在のイメージが現れていると感じる。簡単に改善できるものではないが、市民一人一人が変えていく気持ちが大事。
- 住んでいる人が、その良さを味わってなんぼの世界。大野にあったもの、例えば「食の文化」などが相当捨てられている。そんな大野に外国人は魅力を感じられるのか。過去を顧みることも必要。
- 壮年会組織があるのは、4地区のみ。壮年会は（年齢的に）どこまで壮年会なのか。市にどうやって貢献できるか。
- 市の人口の35%が高齢者。これから、どんな方向に進むのか。高齢者は“過去の人”ではなく、活動できるし使ってほしい。
現状として、若い人が家におらず、高齢者2人や独居が増えている。産業が元気でないから、親は家業を継げと言えない。
コンパクトシティと言っているが、人間社会にコンパクトはない。ニーズは膨らむばかり。
- いろいろな会議に出ているが、課題が山積している。課題を共有して解決することが重要。文化協会も高齢化し、会員数や団体数が減少している。くどいていてもだめなので、若者の引き込みを考えるなど、自分達が汗を流さなければいけない。退職した人を若者の活動に利用してもらうのもよい。
アンケート結果の中間報告を、審議会で行ってほしい。
- 高齢化の話は止めましょう。
観光の分野で、外国人の対応を早めなければいけない。大野城でのご朱印配布の際、外国人への対応が難しかった。まちなかでも外国人を見かけるようになった。
活躍人口の拡大が大事。定住の補助金があるが、補助額を上げるという思い切った施策が大事。

高校生にまちづくりに対して協力を願ってはどうか。鯖江市のJK課のような組織を作ってはどうか。

- 人出不足が問題である。(自分の会社は)昔は高卒が10人だったが、今は1、2人。人手不足に対応し、外国人労働者やAIの導入もあるが、外国人には言葉の問題があり、AIの導入が進むと人がいなくなる。今の高校生たちに大野の企業について知ってもらい、大野で働きたいと思ってもらうことが重要。
- 消防団に若い人が入ってくれるにはどうしたらいいか、消防団の活性化委員会で話し合っている。消防団の定年を5年延長しても、5年後には同じ状況がくる。
- 応募の際に、真剣に大野のことを考えた。魅力ある大野だけでは生活できない。高校生が市外に出ていく。企業は自社の良いところのPRや収入面の向上を考えてほしい。3人の子どもが、家から市外の職場に通っている。福井市のベッドタウン化も一つ。新幹線ができると、並行在来線が民営化になる。以前、越美北線を利用して通勤していたが、増便して、市民の足にしてほしい。
- 福祉の仕事をしているが、いくら募集しても職員が来ない。人材育成したくても人材がいない。行政、事業所で何かしてくれると思っているだけでは進まない。市民一人一人の意識改革が大事。問題を見て見ないふりをしている。親や近所への関わりを、面倒くさいと思っていることが多々見受けられる。人が減る中、そのような人があふれてしまわないよう意識改革が必要だと改めて感じた。
- 大野はポテンシャルが高いところが多い。交流人口を増やすためには情報発信が重要。
- 父が和泉出身で、昨年8月にIターンで和泉に来て、和泉地区を活性化していきたいと考えている。大野のことを把握できていない。大野のことを知りたいと思う。移住者の視点から意見をしたい。
- 総合計画は、身近な計画だということが分かった。女性の意見が大事ということだが、女性は家事、介護、孫守りなどの話をすることが多い。総合計画という大きな話をするに当たり、仲間や民生委員の活動を通じて関わる方からの意見をうかがい、審議会にとってプラスになるような意見を出せたらと思う。

(4) その他

10 閉会